

絶滅危惧植物の特性情報調査表について

日本植物園協会は2006年に「植物多様性保全拠点園ネットワーク」を発足させて、全国の各植物園がそれぞれの地域や専門分野等の特色を活かしながら連携・協働して絶滅危惧植物の保全活動を行っています。

2008年からは絶滅危惧植物の保全を目的とした種子の長期保存を行うため、当ネットワークで種子の収集を行い、種子保存拠点園である環境省新宿御苑において種子の集約的な保存を行っています。

この種子を活用して、将来、生息域外における保全をより確実なものとするためには、種に関する特性に加えて、採集地の地理情報、生育環境情報等、自生地で得られる各種の情報を出来るだけ多く蓄積する事が重要です。

これらの情報には絶滅危惧植物種の栽培や繁殖に必要な多くの情報が含まれており、絶滅危惧植物種に関する知見の核となるものと考えております。

例えば採集地等の地理情報であれば将来的な植え戻し等に不可欠になります。

また、日当たりや土壌、植生等の環境に関する生物学的情報は、生息域外保全において栽培や繁殖の必須条件になります。

さらに、自生地の個体数等の種子収集記録は、今後の保全を考える上で重要な情報となります。

本調査表は自生地で得られる情報を簡便に記入できるように作成しました。

種子収集等屋外で活動する際に、本調査表を活用していただければ幸いです。